



「2016年秋季 JNN 社長会」で 武田社長が基調報告

9月15日(木)、パレスホテル東京において「2016年秋季 JNN 社長会」が開催され、武田社長が基調報告を行いました。概要は以下の通りです。

先日の「台風10号東北上陸」では中継対応、感謝申し上げる。報道の中でも災害報道は、我々放送局が社会から求められている最も大事なミッションである。TBS テレビ業績に関しては第一四半期が終わった時点では、厳しい見通しもあったが、8月以降のスポット市況が持ち直しつつあり、ほぼ想定通りの業績結果になりそうだ。視聴率については大幅な改編を行わず「辛抱・忍耐」の改編に留め各番組の地力をつけさせる態勢を続けている。その結果『あさチャン!』『ビビット』のベルト番組に手応えを感じ始めている。

無事終了した「リオデジャネイロオリンピック」では、日本代表選手や応援する家族・地元関係者への取材・パブリックビューイング中継対応、またスポーツニュース部への応援ディレクターの派遣など、JNN各局には多大なご協力を頂き、改めて御礼申し上げます。全体的には、12時間の時差がある中、日本国内でかなり盛り上がったと感じた。4年後には東京オリンピックがある。私は民放連オリンピック等委員長でもあることから、気持ちをより引き締めている。もっともっと民放の存在感を出していけるようにしたい。野球・ソフトボールなどの種目追加も決定し、これから速やかに取材・中継の制作態勢を整えていきたい。こちら、JNN各局の協力なくしては成り立たない。

3年前の2013年に始めた「リズムダンスふれあいコンクール」は今年で4回目。今年からIBCにも加わっていただき、IBC、MRO、CBC、MBS、RCC、MBC、RBC、TBSの8局で予選会を開催する。このコンクールは、ダンスが中学校の必修科目となったことをきっかけに始めたが、学級単位で参加してもらうことから、地域密着の取り組みを進めている。JNN系列にぴったりのイベントだと考えている。JNNのコンテンツとして育てたいと考えている。そのため、5月に吉田取締役を委員長とするプロジェクトも発足させ、TBSとしても取り組みを強化している。さらなる協力をお願いしたい。

視聴率については、JNN全体でさらに上昇している。特にMBCとRCCは、勢いを増している。MBCは昨年度、15年度年間全日1位を獲得した勢いをさらに伸ばし、上期の全日・G帯・P帯でトップ、3冠を獲得する可能性がある。RCCはG帯・P帯で上期2冠を獲得する可能性があり、獲得すれば23年ぶり。その他、月間でG帯・P帯の2冠、あるいはG帯トップを獲得した局も増えている。SBS、RSK、OBS、RBCが獲得している。RBCは、昨年度年間G帯・P帯2冠獲得の勢いを維持している。またHBCは、上期の全日で2位の可能性があるそうで、そうなれば1995年以来21年ぶりとなる。さらに、MBSも上期全日2位の可能性がある。こちらは21年ぶりとなる。JNN系列全体で、さらに上を目指していきたい。

最後に、9月8日にTBS Bスタジオで豊洲新劇場プロジェクトの記者発表を行った。公演の正式名は「ONWARD Presents 髑髏城の七人 produced by TBS」、劇場名は“IHI ステージアROUND東京”。2017年3月30日に開幕し、現状では東京オリンピック、パラリンピック開催の2020年末までがプロジェクト期間。ブランドイメージ向上とともに、是非ともビジネス上でも成功させたい全社プロジェクトであり、JNN各社のご支援、お力添えをお願い申し上げます。

以上